

箴言5 第8章「知恵の勧め3」

2018/04/25 聖書研究会

1. 【箴言全体に響く中心的メッセージ】

「1:7 主を畏れることは知恵の初め。」

2. 注解書（新共同訳聖書注解）によれば、この章は箴言の第1部（1～9章）のクライマックス

3. ここでは「知恵」が主語、主体となって語り、行動する。なおヘブライ語の「知恵」は女性。 ここで呼びかける知恵は、7章で呼びかける（誘惑する）悪しき女と対比されている。

2「(彼女は) 四つ角に立ち」

4. 「まこと」エメト תָּמִתְּ

7「わたしの口はまことを唱える。わたしの唇は背信を忌むべきこととし」

神と人、人と人の出会いにおける真実。この反対は「7 背信」「8 よこしま」

創世記 24:48「わたしはひざまずいて主を伏し拝み、主人アブラハムの神、主をほめたたえました。主は、主人の子息のために、ほかならぬ主人の一族のお嬢さまを迎えることができるように、わたしの旅路をまことをもって導いてくださいました。」

詩編 51:8「あなたは秘儀ではなくまことを望み／秘術を排して知恵を悟らせてくださいます。」

5. 12節から知恵の自己紹介

「8:12 わたしは知恵。熟慮と共に住まい／知識と慎重さを備えている。」

6. 22～ 知恵は神の創造の最初

「8:22 主は、その道の初めにわたしを造られた。いにしへの御業になお、先立って。」

7. 30「巧みな者」 知恵が神の創造の働きの際して建築家としての役割を果たした、という解釈。 別の解釈は「(神の) 愛児」

「8:30 御もとにあって、わたしは巧みな者となり／日々、主を楽しませる者となって／絶えず主の御前で楽を奏し、31 主の造られたこの地上の人々と共に楽を奏し／人の子らと共に楽しむ。」

神の創造の世界の中で、知恵は神を楽しませると共に、人々と共に楽しむ。

知恵は私たちに神を愛し、真実に生きることを教え、また喜びを与える。